

# 南信州広域観光連携について

## 1 現状と検討課題

南信州（飯田下伊那地域）は1市17町村で構成され、「南信州」をPRする目的で、飯田観光協会、下伊那観光連盟、広域イベント実行委員会がそれぞれ独自の事業を行っている。

観光客には行政区は関係なく、個々の自治体単位で誘客に取り組んでいる現状は、観光客が求める情報を得にくいものとしており、従来の国内旅行者に加え、外国人旅行者誘致等、市町村が連携して誘客施策を行わなければならない課題が増しているが、十分な連携がとれていない。

南信州において、温泉・自然・体験など個々の観光資源は旅の目的となっているが、「南信州」は旅の目的地となっていない。

## 2 主な意見・要望

南信州の自治体が一丸となって誘客をはかれる広域的連携組織が必要。

移行期間として、南信州広域連合に広域観光振興部門を設置することが望ましい。

下伊那観光連盟は解散し、上記組織に移行する。

行政区に関係なく、分野別に南信州の情報集積をおこない提供できる機能が必要。

(株)南信州観光公社との連携による、企画・商品作り及び誘客を行う。

県に対しては、職員の派遣継続と増強、広域観光推進事業への財政支援を求める。

但し、将来は自立を目指す。

## 3 広域観光連携のあり方

（広域観光振興組織）

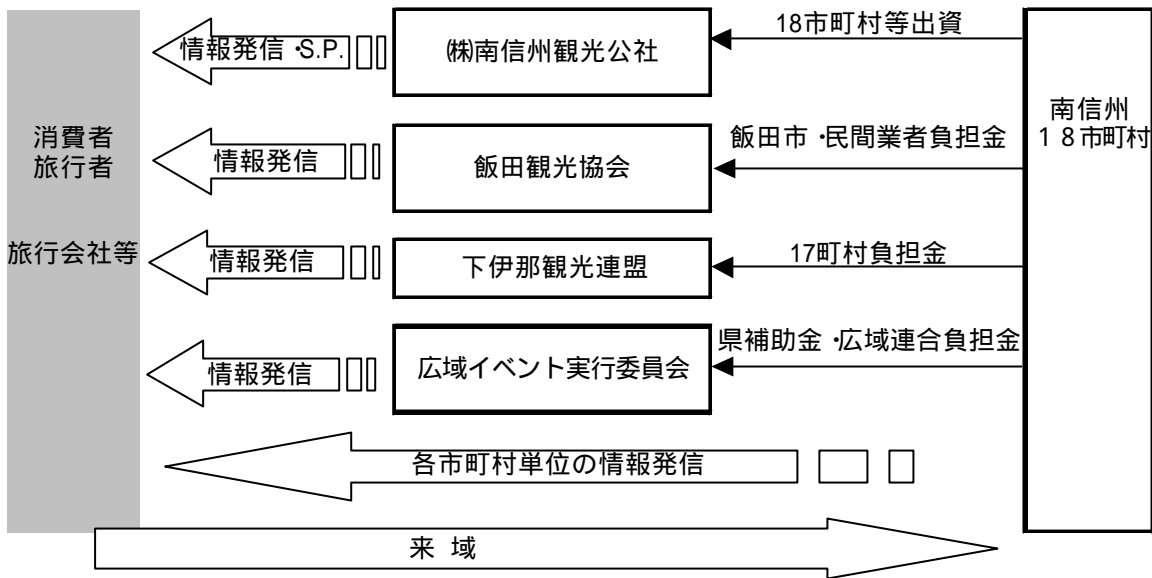
現在の広域連携体制（スキーム）をもとに検討した結果、将来目指すべき広域観光組織は、(株)南信州観光公社が収益部門と公益部門を包含し、広域観光を担う統一組織となること望ましい（スキーム）が、急激な公社の事業負担を緩和するため、当面は(株)南信州観光公社と南信州広域連合を中心とした体制とし（スキーム）今後、飯田市、飯田観光協会など関係者との協議を重ねながら、段階をおって体制の整備を図ることを提案する。

（県職員の派遣）

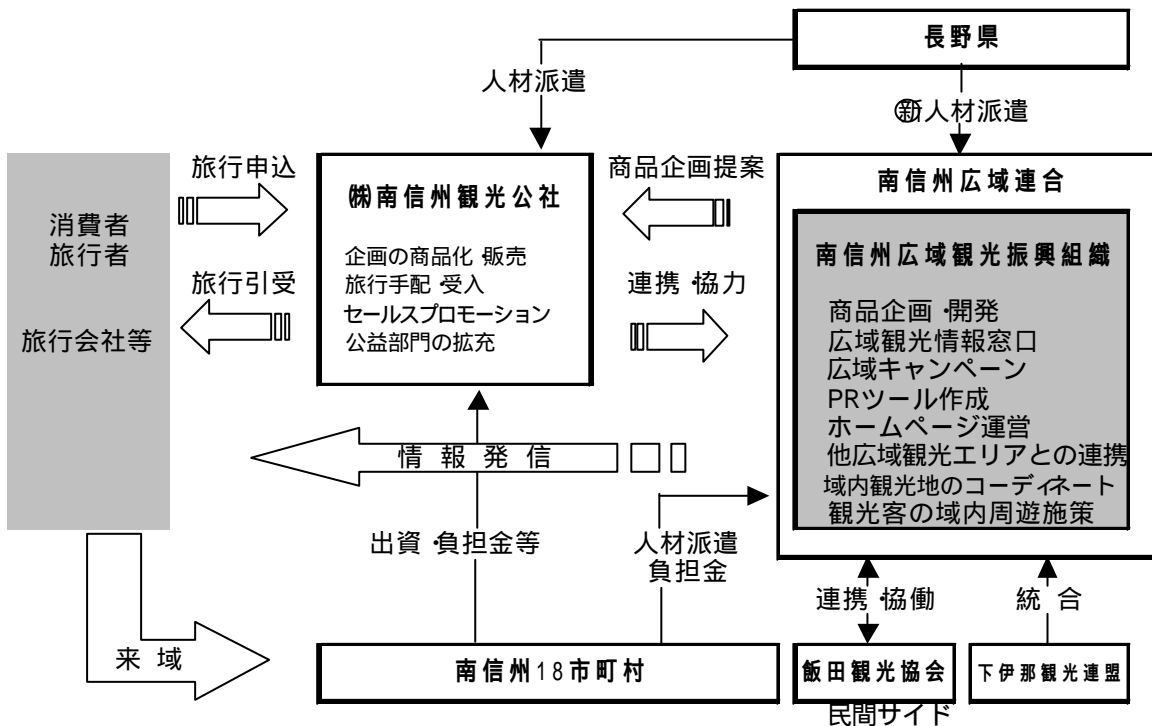
(株)南信州観光公社への県職員の派遣については、高い業務実績が上がっていることから継続を求める。

さらに、域内観光地等のコーディネーターや、下伊那観光連盟統合に伴う事務増加への対応、広域観光推進事業への県既存補助事業の有効利用等、広域観光組織の公益部門の拡充に対応するため、広域観光組織への県職員1名の派遣を新たに提案する。

**広域観光連携スキーム ( )**  
(現状の広域的組織)



**広域観光連携スキーム ( )**  
(新組織発足時)



**広域観光連携スキーム( )**  
 (将来目指すべき広域観光組織)

